

令和3年度 静岡型MaaS基幹事業実証実験

中山間地にてAI配車システムを用いた「地域の資源を総動員した誰にでも使いやすい交通運行実験」を実施し生活支援サービスとの連携による地域住民の活動増進とコミュニティ形成を目指す。また、市街地にて「静鉄電車沿線の活性化及び運賃収入回復・混雑平準化に向けたOne to oneクーポン配布実験」を実施し、まちなかでの賑わい増進、鉄道利用回復、混雑平準化を狙う。

以上の取り組みから、移動サービスの持続性と利便性の両立を目指す。

| 協議会の構成員 | | 【幹事】静岡鉄道(株)、静岡市、商業組合静岡県タクシー協会、富士山清水港クルーズ(株)、静岡市社会福祉協議会、静岡商工会議所、(公財)するが企画観光局、(株)静岡銀行 | |
|-----------|---|--|---|
| 地域課題 | | <p>【中山間地】①高齢化率50%を超える地域におけるコミュニティ維持・強化、②高齢者の移動手段確保・外出機会の創出、③デジタル社会に対応できる環境の構築、④地域の持続に資する交流促進・関係人口の増加、⑤地域公共交通の再編の推進</p> <p>【市街地】①都心と駅周辺商店街等への来訪促進・賑わいの創出、②静鉄電車の利用回復、③静鉄電車の混雑平準化</p> | |
| 事業概要 | 期間 | <ul style="list-style-type: none"> 中山間地部：令和3年11月1日～12月24日 市街地部：令和3年12月1日～令和4年1月28日 | |
| | エリア | <ul style="list-style-type: none"> 中山間地部：静岡県静岡市葵区玉川地区 市街地部：静鉄電車沿線地域 | |
| | MaaSシステム | <ul style="list-style-type: none"> 配車システム：AI運行バス（㈱NTTドコモ） デジタルクーポン：配信システムからLINE・メール経由で配信 | |
| | 交通サービス | <p>【中山間地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民参加型の無償AIオンデマンド交通運行（地域住民によるドライバー、遊休福祉車両活用） タブレットを活用し、デジタル機器に馴染みがない人でも簡単にAIオンデマンド交通を予約できる機能 | |
| 交通以外のサービス | <p>【中山間地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援サービス（スマートグラスを活用した遠隔買い物支援・健康体操等）と交通サービスの連携 <p>【市街地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道利用時間帯や個人特性に応じたクーポン配付（因果推論AIの活用） | | |
| 検証内容 | <p>【中山間地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進む地域住民の活動増進・デジタルデバイド解消を狙う。また実験取得データを中山間地域の交通モデル検討に活用し、今後の市内他地域への横展開、交通再編を図るほか、デジタル技術を活用した中山間地における住環境改善につなげる。 <p>【市街地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかでの店舗利用増加、鉄道利用増加、鉄道利用時間帯の変更（事前告知によるピーク前乗車促進）等の行動変容を狙う。 | | <h3>取組イメージ</h3> <p>①【中山間地部】 地域の資源を総動員した誰にでも使いやすい交通運行実験（玉川のりあい号）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民を運転手とし、地域在りの福祉車両を活用した地元参加型の無償AIオンデマンド運行 スマホ・タブレット・電話等で簡単に予約 外出・地域内交流を促す生活支援サービスと移動サービスの連携 <p>②【市街地部】 静鉄電車沿線の活性化及び運賃収入回復・混雑平準化に向けたOne to Oneクーポン配布実験</p> <p>クーポン配付方法は、①自動配付（ビーコン活用）、②ICカードタッチ（専用端末設置）の2種類</p> <p>自動取得（ビーコン活用）にカードタッチ（専用端末）</p> <p>個人属性や移動履歴等の複数要素を考慮するアルゴリズム（因果推論AI）に基づき電子クーポン（3金額×3エリアの計9通り）を配布</p> <p>アクセスURL（メール） → 300円 → 150円</p> <h3>検証結果</h3> <p>【中山間地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「買い物支援運行（市街地スーパーまで移動）」と「遠隔買物支援（集会所まで移動）」の開催日に乗車が集中するなど、一定の外出促進効果が見られた（高利用者層は一世代世帯）。一方、簡易予約システムを提供したものの、75歳以上は電話予約が主流でデジタルデバイスの操作自体に対する抵抗感が強く見られたなど、高齢者に即した根本的な課題解決策の検討が必要。 <p>【市街地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道収益回復・沿線店舗活性化には一定の効果が見込まれたが、ピーク前乗車への効果はごくわずかなものに留まった。よって、取組みを根付かせていくこと、ついでに需要創出等により効果拡大を図ることが必要な一方、持続性の観点からクーポン配付の仕組み・コスト感をセットで検討を深める必要がある。 <h3>今後の方向性</h3> <p>【中山間地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存バス路線の一部代替・既存運行補助費の付替えを念頭に、代替移動サービスや生活支援サービスの構築・連携の検討を深め、交通網全体として持続的かつ利便性の高い交通網への再編を目指す。 代替移動サービスの設計・改善にあたっては、作成した可視化ダッシュボード※を活用し、潜在需要を含む地域の実態に即したサービスの実装を目指す。 ※移動データ・各種統計データ等を可視化・ドリル分析等を可能にするツール <p>【市街地部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の精査を行い、持続的かつ効果的な取組となるよう検討・沿線店舗との連携を深めていく。 |